

NEWS



患者と家族の間に緩和ケア



平成27年4月より精神科医が緩和ケアチームに参加することになりました。

ここ数年で緩和ケアの中の『心のケア』の存在も医療者のみならず、患者さんにも広く知られるようになりました。もちろん、心の安定は家族、友人など近い人たちの協力が不可欠ですし、その繋がり、悩みや不安が解消されることも多くあります。一方で多くの患者さんが抱える「心配かけたくない」「弱い姿は見せたくない」との気持ちから、家族にこそ相談できないことが多いこともまた事実です。そして家族は患者に対して「傷つけたくない」「どう言葉をかけてよいのかわからない」との気持ちから、ついつい「そんなこと心配しなくても大丈夫」と患者の不安の表出を遮ってしまうことしばしば見られます。緩和ケアチームは時には架け橋のように、そういった患者と家族の思いがうまく通い合うお手伝いができればと考えております。

緩和ケアの「心のケア」は患者のみに向けられたものではありません。ご家族の気持ちのつらさにも焦点を当てたケアを今後も目指していきたいと思っております。

文責：鎌田 鮎子（精神科）



豆知識

骨転移のある患者さんのADL拡大は非常に重要かつ難しい問題です。寝たきりによる廃用から生じる多くの合併症リスクを回避すること、出来る限りご自身で出来るQOLを維持することが主たる目的となります。

骨転移患者に対する適切なリスク評価と管理が重要であり、そのリスク管理についての明文化と医療スタッフ間での情報共有、患者・家族への説明と同意が重要です。



お知らせ

6/18-20 日本緩和医療学会学術大会
(パシフィコ横浜)

8/8-9 横浜南共済病院緩和ケア研修会
(当院)

